

令和2年第7回定例公安委員会会議録

開催日時 令和2年3月5日(木) 午前11時15分～午後2時45分

開催場所 警察本部

第1 定例会議

1 開催時間 午後1時30分～午後2時20分

2 出席者

公安委員会 小谷委員長 衣笠委員 勝部委員

警察本部 津田警察本部長 伊貝警務部長 谷村首席監察官
長谷高生活安全部長 松岡刑事部長 柳清交通部長
牧田警備部長 竹森警察学校長 妹尾情報通信部長
樋口警務部参事官 奥村郡家警察署長

(事務局等～中嶋公安委員会補佐室長、畔田広報官、中田補佐)

3 議題事項

遺族給付金の支給裁定(案)(警務部)

警察本部から、犯罪被害者等給付制度に基づく遺族給付金の支給裁定案について説明がなされた。

委員

事前に説明を受けており、このとおり決裁する。

4 報告事項

○サイバー犯罪対策の状況(令和元年中)(生活安全部)

○県内の薬物情勢(刑事部)

○郡家警察署の取組（活動）状況（郡家警察署）

（１）サイバー犯罪対策の状況（令和元年中）（生活安全部）

警察本部

令和元年中のサイバー犯罪の検挙件数は51件であり、前年比9件増加し、過去最高であった。内訳は、不正アクセス禁止法違反が1件、コンピュータ・電磁的記録対象犯罪が12件、ネットワーク利用犯罪が38件であった。

県警察では、サイバーセキュリティ体制の刷新強化に向け、関係規程を改正するとともに、指針に基づいた人材育成計画や検定制度を策定し、サイバー空間の脅威への対処能力強化の取組を推進している。

主な対処能力向上対策として、サイバー犯罪捜査検定（初級・中級）を実施しており、昨年の県下警察官の初級取得率は一昨年の77.6パーセントから大きく増加し、86.4パーセントであった。また、昨年7月からは、全職員が常時利用できる研修システム「サイバーセキュリティ対策研修システム」を構築し、eラーニングによる実効性の高い教養を可能としたほか、資料ダウンロード、マップ、法令検索等、事案対処で有効な機能を実装した。このほか、サイバー犯罪対策課員3人が出場した「全国サイバーセキュリティコンテスト」決勝大会では準優勝し、警察庁長官賞を受賞した。

主な人材育成対策は、研修会の開催、サイバー犯罪対策課員の専科入校、県内IT企業での民間研修を行った。

主な被害防止対策は、県民に対するサイバーセキュリティ講演や、鳥取県サイバーセキュリティ対策ネットワークによる産学官連携体制を軸とした各種広報啓発活動を実施したほか、本年1月30日の定例公安委員会でも報告したが、県教育委員会と連携した取組として、独立行政法人情報処理推進機構の協力を得て、県内教職員及び警察職員等を対象としたインターネット安全教室を開催するなどした。

引き続き、サイバー空間の脅威への対処に係る人材の裾野の拡大及び能力の向上、高度な情報通信技術を悪用したサイバー犯罪の取締り強化、産学官連携の枠組みを活用した更なる広報・啓発活動の推進強化等に取り組んでいく。

委員

全国サイバーセキュリティコンテストでの準優勝は、とてもすごい結果だと思う。県警察としての取組成果でもあるし、県警察のサイバー犯罪対策課員は、全国でも引けを取らない技能があるということである。これは県民の信頼にもつながるので、是非、広報していただきたい。

委員

サイバー犯罪は次々と新たな手法がでてくると思うが、引き続き、諸対策をお願いする。

(2) 県内の薬物情勢（刑事部）

刑事部長

県内の薬物情勢について、令和元年中は薬物事犯で36人検挙した。その半数以上が覚醒剤事犯であったが、近年は大麻事犯の増加が顕著である。薬物の押収量は乾燥大麻が増加傾向である。本年に入ってから、1月に琴浦大山警察署管内で逮捕した被疑者方から約4.5キロ押収し、末端密売価格は約2,250万円相当であった。

令和元年中の特徴としては、暴力団構成員等が深く関与しており、検挙人員に占める暴力団構成員等の比率は38.8パーセントであった。全体の年齢構成は30歳代の占める比率が最も高いが、大麻事犯の多くは30歳代以下の若い世代であった。また、薬物事犯は再犯率が高く、昨年検挙した人員に占める薬物前科歴者は約58パーセントであった。特に覚醒剤は再犯率が高い傾向にあり、警察だけでなく、社会全体での対策が求められる。

なお、全体に占める女性の割合は約1割であった。

引き続き、末端乱用者の検挙と突き上げ捜査を徹底するとともに、麻薬取締部、税関、海上保安庁等の関係機関と連携を強化する。また、少年課とも協力し、高校等において生徒及び教職員に対する薬物乱用防止講習を行うなど、啓発活動にも取り組んでいく。

委員

薬物事件の検挙の端緒は何が多いか。

警察本部

職務質問や情報提供など様々である。

委員

昨年、県内で中学生による薬物事件の事例はあったか。

警察本部

ない。

警察本部

少年による薬物事犯は、平成28年以降はない。

委員

薬物は、インターネットなどで簡単に手に入るイメージがある。中学校や高校でも薬物乱用防止教室を行っていると思うが、やはり子どもたちに正しい知識を

身に付けるためにも教育として取り組むことは大切だと思う。近年は少年の検挙はないとのことだが、鳥取県だから例外ということはない。引き続き啓発活動を行っていただきたい。

委員

地道な活動になるが、引き続きよろしく願います。

(3) 郡家警察署の取組（活動）状況（郡家警察署）

郡家警察署

当署では地域に密着した取組を行い、地域住民の参加を促し、警察から情報発信を行うことで当事者意識を醸成するとともに、いただいた住民の意見を警察業務に反映させ、地域に根ざした活動を行っている。

昨年6月に開催した郡家警察署協議会において、「まちづくり委員会との連携」について提言を受けた。「まちづくり委員会」は、八頭町旧小学校区単位の高齢者コミュニティであり、集まりに警察も出席し、各種講習を実施した。昨年6月以降、延べ64回参加しており、高齢者に対する防犯・交通対策や意識付けに大きな効果があると考えている。参加者からも、「腹話術を交えるなど、分かりやすく楽しい内容である。」などの感想が寄せられた。また、住民に警察業務への理解を深めていただき、警察と住民との距離を縮めること、自主防犯意識を高めることなどを目的とし、「地域安全・安心ふれあい大会」を開催している。昨年は6回目となり、10月6日に八頭町中央公民館において開催した。内容は、こども警察官任命、防犯漫才、鑑識体験、八頭中学校と警察音楽隊の合同演奏等のほか、サポートカー体験、消防車両の展示、管内各町のマスコットの参加等、警察だけでなく関係団体にも御協力いただいた。

交通安全広報では、当署管内に所在の隼駅が、隼（スズキのバイクの名称）ライダーの聖地であることから、白バイと合同でパレードを行い、交通安全広報を実施したり、ケーブルテレビの協力を得て、保育園児による交通安全を呼び掛ける動画を作成し、2月下旬から放映中である。

当署の働き方改革の推進状況については、当署独自のマスコット「カエルゾウ君」を作成し、視覚化して定時退庁の意識付けを行っている。また、隠れた業務の無駄をなくすため、「ヤメることリスト」を作成し、業務改善を図った。さらに、当署の女性の会である「ふく姫の集い」の意見を聞き、女性の視点を業務に反映させており、同会の意見を受けて、現在、当署には女性警察官が1名配置のところ、女性警察官の複数配置を要望した結果、次の人事異動では女性警察官が2名配置となる。

若手警察官の育成については、拝命10年未満の警察官に対して、「考動と実戦経験」を育成の柱とし、自ら考えて行動し、やらされた感のない仕事をすることで、仕事の面白さを経験できるよう取り組んでいる。

今後、情勢に応じて新しい視点で業務に取り組むとともに、各種団体との更なる連携強化と新規開拓、業務の合理化・効率化の継続的推進等を行っていく。

委員

郡家警察署協議会からも活発な意見があるように、警察と地域との垣根が低く、地域住民と良好な関係を築いている。これを絶やすことなく、引き続き警察業務に生かしていただきたい。

委員

地域安全・安心ふれあい大会で、中学生と警察音楽隊との合同演奏をされているが、中学生が警察と一緒に活動をする経験はあまりないので、良い経験になると思う。また、その保護者にも広報、啓発をすることにつながる。とても良い取組だと思うので、継続していただければと思う。

委員

ヤメることリストについて、具体的にどのような意見があったか。

郡家警察署

例えば、会議資料の内容、不要な書類作成等について意見があった。
実際の業務に影響がないものについて、意見を反映した。

委員

警察署で行っている業務等について、時々立ち止まって考えることは必要だと思う。

委員

郡家警察署ならではの取組を行っておられるが、引き続き地域住民のための活動をよろしく願います。

5 その他

贈収賄被疑者の逮捕（刑事部）

警察本部

本年2月28日、収賄被疑者として、米子市農業委員会の男性・82歳、贈賄被疑者として、会社役員の男性・79歳を通常逮捕した。

委員

これから捜査が続くと思うが、適正な捜査を行っていただきたい。

第2 その他の公安委員会活動

1 意見の聴取

運転免許課から、道路交通法に基づく意見の聴取1件について、事案概要、処分理由、当事者の陳述要旨、基本量定等を詳細に聴取し量定を決定した。

2 事前説明

遺族給付金の支給裁定（案）

3 報告事項

- ・ 人事案件
- ・ 聖火リレー関係

4 決裁

- ・ 公安委員会表彰上申
- ・ 遺族給付金の支給裁定（案）
- ・ 令状請求者等の指定
- ・ 組織改正に伴う関係規程等の改正
- ・ 指定自動車教習所関係

5 公安委員会委員間の事前検討・協議等

6 公安委員会補佐室からの事務連絡等

公安委員会補佐室から当面の行事予定等について確認と説明があり、了承した。